

授業科目 社会福祉士国家試験対策特講

【担当教員名】 丸田 秋男	対象学年	1	対象学科	社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	-	時間数	30

<概要>

社会福祉士の資格は、社会福祉士試験に合格した者に与えられる。過去14回の平均合格率は27.8%であり、平成14年1月に実施された第14回の試験結果は29.5%であった。国家試験である社会福祉士制度について正しい理解を深め、試験対策として必要な学習過程や方法等の要点を学習する。

<学習目標>

1. 社会福祉士制度及び社会福祉士に求められる役割等を正しく理解する。
2. 社会福祉士資格取得に向けて主体的に学習に取り組む意欲・態度を身につける。
3. 社会福祉士国家試験対策としての具体的な学習過程や方法等を習得する。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO	
			番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	社会福祉士とは①	根拠法令、国家試験の概要等について学ぶ。		講義
2	社会福祉士とは②	社会福祉士の使命、仕事、倫理綱領等について学ぶ。		同上
3	試験対策の進め方	試験対策としての学習過程とその方法等について学ぶ。		同上
4	社会福祉士の現状と課題	わが国の社会福祉士の現状と課題等について学ぶ。		同上（外部講師）
5	社会福祉士の業務①	社会福祉士の業務の実態等について学ぶ。		同上（外部講師）
6	社会福祉士の業務②	社会福祉士の業務の実態等について学ぶ。		同上（外部講師）
7	試験対策の実践①～⑥	過去問題を用いた学習方法の実態等について学ぶ。 また、国家試験体験者から試験対策の実践を学ぶ。		演習と講義
～				
12				講義
13	社会福祉士の役割	社会福祉士に求められる役割等について学ぶ。		講義（外部講師）
14	まとめ	2年次以降の学習過程とその方法等について学ぶ。		同上

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	作成プリントとする			
参考書	新版・社会福祉士養成講座（1～15巻）		中央法規	2001年、各2,500＋税
その他の資料	法制度等は毎回レジュメを配布する予定			

【評価方法】	【履修上の留意点】
・ 可否の評価はしない。ただし、授業評価及び 4年後の試験結果との関連性を分析 ・ 評価するために出席をとる。	・ 効果的な学習のために外部講師による特別講義を活用する予定である。 ・ 4年後（平成18年1月）の国家試験に向けた特別講義であることを十分認識した上で、 受講を自己選択（自己決定）したことに責任をもって、主体性に学習に取り組んでほしい